

平成28年度購入文化財一覧

【東京国立博物館】(計5件)

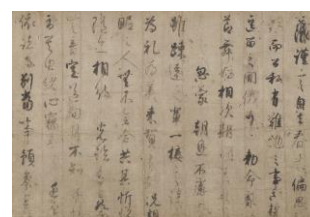
- 1

○種 別	絵画
○名 称	准胝仏母像 (じゅんていぶつもぞう)
○指 定	重要文化財
○時 代	平安時代・12世紀
○品 質	絹本着色
○員 数	1幅
○寸 法 等	縦104.0cm 横43.2cm
○作品概要	掛幅装。金銅軸。三目十八臂の准胝仏母像を描く。准胝は他に七俱胝仏母、准胝観音とも呼ばれ、除災・延命・除病・求児等のために行われる准胝法の本尊として用いられた。平安期の画像の現存例は2点しかなく、本図はそのうちの1点である。
○購入金額	200,000,000円
- 2

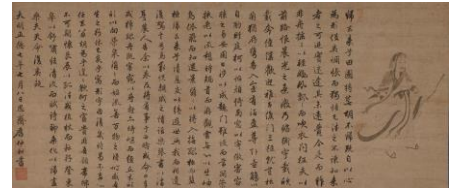
○種 別	書跡
○名 称	書状 (しょじょう)
○指 定	重要文化財
○作 者 等	藤原行成 (972~1027) 筆
○時 代	平安時代・寛仁4年 (1020)
○品 質	紙本墨書
○員 数	1幅 (附属1幅)
○寸 法 等	縦30.5cm 横48.5cm
○作品概要	掛幅装。木軸。唯一現存する藤原行成の書状である。「行成」の草書を組み合わせた草名 (のちの花押) で始まるが、この草名が記された遺品としても唯一のものである。「昇進」した際にたくさんの人々が「来賀」したが手紙の相手は来てくれなかったと述べている。後半部分が失われており宛先はわからないが、「光臨」などの語句の前を闕字にしており、相手に敬意を表していると思われる。 尊円親王 (1298~1356) 筆の建武元年 (1334) の添状が附属している (重要文化財の附)。
○購入金額	392,500,000円
- 3

○種 別	書跡
○名 称	無量義経十功德品第三断簡 (愛知切) (むりょうぎきょうじゅうくどくほんだいさんだんかん (あいちぎれ))
○作 者 等	伝藤原行成 (972~1027) 筆
○時 代	平安時代・11世紀
○品 質	彩箋墨書
○員 数	1幅
○寸 法 等	本紙 縦 25.6cm 横 48.6cm
○作品概要	掛幅装。平安時代中期に書写された『無量義経』の断簡で、雁皮紙に丁字吹きを施し、金泥で界線を引いた上に、金揉箔を一面に撒いた料紙を用いる。経文はやや細みで、行書を交えた典雅な和様で書写している。「愛知切」の名は、本経と同じ体裁をもつ『観普賢経』が早くから分割されて手鑑などに貼られ、その伝称筆者といわれる小野道風の出生地に因んで付けられたものである。したがって、もとは開結をともなう法華経の一部であった可能性がある。
○購入金額	18,000,000円
- 4

○種 別	東洋書跡
○名 称	行書陶淵明帰去来図画賛軸 (ぎょうしょうえんめいききょらいずがさんじく)



○作者等 詹仲和（生没年不詳）筆
 ○時代 明時代・正徳7年（1512）
 ○品質 紙本墨書
 ○員数 1幅
 ○寸法等 縦37.8cm 横88.0cm
 ○作品概要



掛幅装。陶淵明（365～427）像に、詹仲和の款を伴う行書「帰去来辞」が続く。策杖の陶淵明像は、16世紀に広く流布した、李公麟（1049～1106）系統の白描「陶淵明事蹟図巻」（伝朱徳潤筆京都個人蔵本など）の「帰去来」段の図像と同種である。

○購入金額 12,000,000円

5 ○種別 東洋陶磁
 ○名称 青花雲龍文方壺（せいかうんりゅうもんほうこ）
 ○作者等 景德鎮窯
 ○時代 明時代・嘉靖年間（1522～1566）
 ○品質 磁製
 ○員数 2口
 ○寸法等 高20.1cm
 ○作品概要



皇帝の象徴である五爪の龍を表した、明時代後期の嘉靖年間の官窯器である。当時の景德鎮では、官窯器を民窯に委託して焼造することが常態化しており、造形やコバルト顔料の発色など、作風にも変化がみられる。一方の胴の一面は、龍の爪が一つずつ削り取られており、皇帝から下賜されたものと考えられる。

○購入金額 37,800,000円